

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03603

研究課題名（和文）伊能図の成立過程に関する学際的研究 - 忠敬没後200年目の地図学史的検証 -

研究課題名（英文）Interdisciplinary study on cartography and surveyed maps of Japan by Tadataka Inoh

研究代表者

平井 松午（HIRAI, Shogo）

徳島大学・大学院社会産業理工学研究部（社会総合科学域）・非常勤講師

研究者番号：20156631

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、伊能忠敬らが作製した大名家献上本伊能図や測量下図・定稿図（稿本）を対象に、高精細画像データや非破壊調査を用いて、料紙・彩色・針穴・記載内容について検証した。この結果、献上本・控図・下図などで料紙の使い分けがなされたことや、献上本の地図・コンパスローズで顔料（彩色）の使用頻度が高いことが判明した。また、針穴の分析からは、測量時期における測量精度の違いや稿本と大名家献上本との関係性、伊能図の高度な作製技法が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の伊能図研究では、最終版伊能図の「大日本沿海輿地全図」を中心に紹介されてきたが、当科研では大名家献上本伊能図や測量下図・定稿図（稿本）を研究対象とし、それらの高精細画像データの分析や非破壊調査を通じて、伊能図の作製過程を初めて検証した学術的意義は大きい。

研究成果については、日本地理学会2022年春季学術大会シンポジウム「伊能図を検証する - 伊能忠敬の地図作製 -」の開催や、2冊の科研報告書『稿本・大名家本 伊能図研究図録』・『伊能忠敬の地図作製 - 伊能図・シーボルト日本図を検証する』の刊行などを通じて公表できたことで、一定の社会的使命を果たすことができた。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we verified the types of Japanese paper, coloring material, needle holes at the surveying point, and description contents of Tadataka Inoh's cartography and survey maps of Japan, using high-definition image data and non-destructive inspection methods.

As a result, it was found that various types of Japanese paper were used in the maps presented to Daimyos (i.e., feudal lords), the copies of the submitted maps, and the draft maps, and that coloring pigment was frequently used in the presented maps to symbolize directions (i.e., the compass rose). In addition, the results of the analysis of the needle holes revealed the differences in survey precision during the survey period, the relationship between the draft maps and presented maps, and the advanced technique used for making Inoh's maps.

研究分野：歴史地理学

キーワード：伊能図 伊能忠敬 非破壊調査 高精細画像データ 地図学史 学際的研究

## 1. 研究開始当初の背景

伊能忠敬(1745-1818)は初の実測日本図作製者として著名であるが、最終版伊能図とされる「大日本沿海輿地全図」を幕府天文方の高橋景保らが完成したのは、忠敬没後の文政4年(1821)である。幕府に上呈された「大日本沿海輿地全図」の原本は残っておらず、これまでは大名家献上本の副本や幕末・明治期の写本などをもとに地図投影法や精度などが検証されてきた(大谷1917、保柳1980ほか)。

他方、忠敬が生前に作製した大図・中図・小図については、伊能忠敬記念館所蔵の控図約100点のほかに、針孔がある副本や針孔がない写本類が全国各地に100点余が確認され、それらは描画範囲や様式、彩色、記載内容も異なる。しかし、精緻な大型地図ということもあって、これらの伊能図については、十分な学術的・科学的検討がなされてこなかった。

そうした中で、本科研申請代表者の平井(2016)らは、東京大学史料編纂所や東京文化財研究所、伊能忠敬記念館等の専門家の協力を得て、平成26・27年度に「伊能図検証プロジェクト」を実施し、徳島大学附属図書館所蔵の蜂須賀家旧蔵伊能図副本10舗(沿海地図3舗、大日本沿海図稿4舗、豊前国沿海図3舗)について、料紙・彩色等の非破壊調査(蛍光X線分析・可視反射スペクトル測定)および800dpiの超高精細画像データを用いて直径0.2mmの針孔分析を行った。こうした大名家本伊能図に関する初の学術調査結果からは、東日本の前期測量地図と西日本の後期測量地図とでは地図仕立てや測量精度が異なり、伊能図はこの過程で「日本沿海図」「日本沿海輿地全図」へと性格を変えたとみられることなど、興味ある成果が数多く判明した(徳島大学附属図書館編『伊能図検証プロジェクト報告書』)。

伊能図は、その当初から統一的な作図法が採られたわけではないが、測量開始から最終版伊能図の「大日本沿海輿地全図」完成までの約20年間に、当時の社会情勢や幕府の要請を背景に段階的に作製方針や地図仕立てが変更された可能性が高い。従来の伊能図研究ではこうした視点についてはほとんど着目されておらず、こうした観点からも、地図学史上における伊能忠敬の日本沿海測量や「伊能図」の位置づけについての見直しが必要となる。

## 2. 研究の目的

伊能忠敬の業績や日本図に関する研究報告は数多いが、最終版伊能図とされる文政4年(1821)の「大日本沿海輿地全図」完成以前に、忠敬が直接作製に携わった測量下図・定稿図と大名家献上本伊能図との関連や、現在各地に残る伊能図(副本・写本類)の地図仕立てについてはほとんど検証されていない。

伊能図は極めて高度な技法で作製されている。そこで、本研究課題「伊能図の成立過程に関する学際的研究 - 忠敬没後200年目の地図学史的検証 -」では、大名家献上本伊能図や測量下図・定稿図等の料紙・彩色・針孔(針穴)・記載内容を、超高精細画像データや非破壊調査などの最新技術を用いて科学的に検証し、伊能図の作製・編集過程を明らかにするとともに、すでに原本が失われている「大日本沿海輿地全図」の実像に迫る。併せて、近年解明が進む長久保赤水・シーボルト研究の成果の下に忠敬収集絵図や諸記録についても分析し、日本地図学史上で最も特出した「伊能図」の学術的意義について再検証することにある。

## 3. 研究の方法

研究期間は2018~21年度の4年間で、伊能図を所蔵する主な機関において下記の要領で原本調査を実施した。調査に際しては、所蔵機関の学芸員や担当者の協力のもと、歴史地理学、地図学、歴史GIS、日本史学の研究者や、書誌・和紙や絵画・彩色材料の分析を専門とするメンバー(延べ27名)が参加して実施された。文理融合型の学際的な取組は本研究の特徴でもある。

各地に残る伊能図については、渡辺一郎(1998・2000・2010)らの精力的な先行調査によって所蔵先や特徴、針孔の有無については確認されている。本研究で主として対象とするのは、このうち文政4年(1821)の「大日本沿海輿地全図」の完成以前に作成された伊能図(最終版以前の伊能図)であり、伊能忠敬記念館をはじめとする諸機関に約200点が所蔵されている。ただし、これらの伊能図の多くは未完成の日本図や特定地域を描く編集図であり、その縮尺も大図・中図・小図と多様で、相互の関連性は未解明である。また、同じ中図の(日本東半部)「沿海地図」であっても、所蔵する機関の地図仕立てがそれぞれ異なるケースもある。それゆえ、これらの伊能図の地図仕立てや作成時期、相互の関係性などを明らかにすることで、最終版以前に作成された伊能図の成立過程を経年的に追跡することが可能となる。

その際に有効なのは、各機関に所蔵される伊能図の科学分析である。すなわち、同時期に作製(複製)された伊能図であれば、料紙、彩色、針孔などが共通する可能性が高く、原本(元図)となる伊能図の特定も可能となる。とくに、複製時に開けられた針穴(針孔)については、伊能忠敬記念館に残されている測量下図・定稿図と他機関所蔵の伊能図(針穴のある副本類は約60点)あるいは所蔵先が異なる伊能図の針穴との重なりが確認されることで、元図-複製図の関係を明らかにすることができるだけでなく、直径0.2mmの針穴を0.2~0.5mm間隔で開けていく当時の製図技術を解明することも可能となる。

こうした点から、本研究では、まず 2018・19 年度に最終版以前の伊能図（副本）についての共同調査・科学調査を進めるとともに、2020・21 年度には最終版以降の伊能図（副本・写本）について共同調査を進めることとした。解析に有効な高精細画像データの作成については、2018・19 年度に徳島大学附属図書館所蔵の伊能図（未実施分）および伊能忠敬記念館の測量下図・定稿図などについてまず行い、2020・21 年度に他機関所蔵伊能図についても適宜作成する。徳大本伊能図は、大名家献上本の装幀をよくとどめる針孔のある上質の副本であることから、示準史料として活用する。さらに、伊能忠敬記念館には国宝に一括指定されている測量下図・定稿図などの地図類や大量の記録・文書のほか、伊能忠敬が収集し参考とした各種の地図・絵図が所蔵されていることから、これらの文書・絵図類の分析を進めることで、「伊能図」成立過程の全容解明に努める。

なお、調査対象とする伊能図を所蔵する機関は多いものの、国立国会図書館や学習院大学図書館、徳島大学附属図書館、東京大学総合研究博物館などでは、すでに所蔵伊能図の高精細画像データ（200～400dpi レベル）が公開されており、国土地理院や国文学研究資料館の伊能図については画像データを入手済みであることから、調査にあたってはこうしたデータも活用する。

#### 4. 研究成果

(1) 伊能図の原本調査に際しては、所蔵機関の学芸員・担当者と事前に入念な調整を行った上で非破壊調査を実施した。2018 年度には 9 月以降、伊能忠敬記念館、国立歴史民俗博物館、早稲田大学図書館において共同調査を実施した。同様に 2019 年度には、長崎歴史文化博物館・松浦史料博物館・京都大学附属図書館、国立国会図書館において所蔵伊能図の共同調査を実施している。いずれも科研メンバー 10 名前後が参加している。この間平井は、神戸市立博物館や広島県立博物館所蔵の伊能図についても原本調査を行っている。

しかしながら、2020 年 2 月以降における新型コロナの感染拡大により、現地調査の実施が困難となり、2020 年 11 月の宮城県図書館所蔵伊能図、2021 年 11 月のゼンリンミュージアム所蔵「實測輿地圖」（伊能小図）、山口県文書館所蔵「御両国測量絵図」（伊能大図）の原本調査にとどまった。当初の計画では東京大学や東京国立博物館等に所蔵される最終版伊能図「大日本沿海輿地全図」系統の伊能図についても調査予定であったが、これらについては断念せざるを得なかった。ただし、「大日本沿海輿地全図」成立以前の伊能図についてはおおむね原本調査が実施でき、多くの成果を得られた点で、当初の調査計画はおおよそ達成することができた。

(2) 他方、原本調査と並行して、徳島大学附属図書館所蔵の伊能図 6 点と伊能忠敬記念館所蔵の伊能図・下図類 20 点、神戸市立博物館所蔵の「近江国及附近絵図」（伊能中図）については、600～800dpi の高精細画像データを作成することができた。こうした高精細画像によって、伊能図の微細な針穴（針孔）や測線、地名、料紙の接ぎ、コンパスローズの仕様などが確認できるようになった。この他、伊能忠敬記念館所蔵の地図類・文書類のポジフィルム約 500 点についてもスキヤニングデータを作成した。また、原本調査を行った地図のうち、約 50 点について反射分光器や蛍光 X 線分析計を用いて地図ごとに彩色材料を計測した。

(3) こうした調査・分析を通じて、各機関に所蔵される伊能図相互の関係性や、測量下図 - 寄図 - 地図下図（原図） - 清図といった一連の地図仕立て、（日本東半部）「沿海地図」と最終版の「大日本沿海輿地全図」との地図仕立ての違い、大名家本や控図、下図ごとにおける料紙や彩色材料に使い分けなどを確認することができた。詳細は、下記の報告書に収録している。

(4) 個別伊能図の調査結果や高精細画像データについては科研メンバー間で共有するとともに、毎年度研究集会を開催して調査内容・分析結果について確認した（2020・21 年度はオンライン）。また、地域貢献の一環として、2019 年度には長崎歴史文化博物館・松浦史料博物館において伊能図関連の講演会を実施した。

2021 年には「大日本沿海輿地全図」完成 200 年を迎えたことから、これを記念して神戸市立博物館で開催された特別展「伊能忠敬」の開催に協力するとともに、神戸市立博物館・伊能忠敬記念館共催の記念シンポジウム（7 月 17 日開催）に科研メンバーがパネラーとして参加した。さらに 2022 年 3 月 19 日には、日本地理学会春季学術大会シンポジウム「伊能図を検証する」（オンライン、参加者約 90 名）において当科研の成果報告を行った。

(5) これら一連の調査内容・研究成果については、2 冊の科研報告書（平井松午・島津美子編『稿本・大名家本 伊能図研究図録』創元社（A4 判 344 頁）および平井松午編『伊能忠敬の地図作製 - 伊能・シーボルト日本図を検証する』古今書院（B5 判 269 頁）として上梓することができた。前者は、伊能図の所蔵機関別に合計約 150 点に及ぶ地図・下図の個別解説書で、後者は伊能測量・伊能図・シーボルト日本図などに関する個別論文集である。いずれも今後の伊能図研究の進展に寄与することが期待される。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 塚本章宏	4. 巻 15
2. 論文標題 徳島大学附属図書館所蔵伊能中図の描画精度 - 『沿海地図』と『大日本沿海図稿』の比較 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 徳島地理学会論文集	6. 最初と最後の頁 59-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉本史子	4. 巻 6
2. 論文標題 海洋空間と情報の幕末史 - 海図と船艦の19世紀 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 91-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井松午	4. 巻 162
2. 論文標題 蜂須賀家と伊能図	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 すだち（徳島大学附属図書館報）	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小田匡保	4. 巻 55
2. 論文標題 現・世田谷区域大山街道における伊能忠敬測量隊の測量と地図等の記載内容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 駒澤地理	6. 最初と最後の頁 25-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 菊地智博・佐藤賢一・瀬戸裕介・杉本史子	4. 巻 89
2. 論文標題 江戸幕府天文方堀田仁助関係史料調査報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センタ 通信	6. 最初と最後の頁 6-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉本史子	4. 巻 52-7
2. 論文標題 絵図の史学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 121-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林茂・鳴海邦匡	4. 巻 21
2. 論文標題 近世の日本で作製された絵図のヨーロッパにおける利用：近年の成果をふまえた展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪観光大学研究論集	6. 最初と最後の頁 21-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤賢一	4. 巻 33-1
2. 論文標題 和算書『枕碁十七綱』に現れる測量術の技法について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 電気通信大学紀要	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤賢一	4. 巻 34-1
2. 論文標題 建部賢弘『研幾算法』による弓形の弧長の導出式の復元について(続)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 電気通信大学紀要	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件(うち招待講演 4件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 青山宏夫
2. 発表標題 伊能日本図からシーボルト日本図へ - ドイツとオランダの新出資料から -
3. 学会等名 伊能図科研・長崎学連携講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚本章宏
2. 発表標題 針孔の地図 - 超高精細画像で見る伊能図 -
3. 学会等名 平戸オランダ商館定期講座 第54回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井松午
2. 発表標題 四国(南海)を描いた伊能図
3. 学会等名 2019年度徳島地理学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井松午
2. 発表標題 四国を描いた伊能図
3. 学会等名 放送大学徳島学習センター・徳島県立図書館共催「まなびの森」講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳴海邦匡・小林茂
2. 発表標題 近世日本で作製された絵図のヨーロッパにおける利用
3. 学会等名 2020年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 世界を描く 古地図にみる江戸の人々の見方・考え方
3. 学会等名 東洋文庫ミュージアム講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 政治社会の動きを描くパノラマ的広域鳥瞰図
3. 学会等名 第23回国際浮世絵学会秋季大会「名所絵・地図・地誌」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小田匡保
2. 発表標題 現・世田谷区域大山街道における伊能忠敬測量隊の測量と地図等の記載内容
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉本史子
2. 発表標題 近代的国家領域の模索 海域と「日本」
3. 学会等名 世界遺産研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塚本章宏
2. 発表標題 0.2ミリの足跡 - 伊能図の針穴を数える -
3. 学会等名 伊能図完成200年記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 島津美子
2. 発表標題 伊能図を彩るさまざまな絵具
3. 学会等名 伊能図完成200年記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平井松午
2. 発表標題 伊能図の地図仕立てを検証する
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会シンポジウム「伊能図を検証する」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤賢一
2. 発表標題 会田安明著『天文簡要論』にみる伊能忠敬の測量
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会シンポジウム「伊能図を検証する」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 塚本章宏
2. 発表標題 高精細画像とGISを援用した伊能図の針穴と作図水準の比較分析
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会シンポジウム「伊能図を検証する」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 酒井一輔
2. 発表標題 「沿海地図」から「沿海輿地全図」へ 伊能中図「総合図」の比較分析
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会シンポジウム「伊能図を検証する」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小田匡保
2. 発表標題 伊能図の記号凡例
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会シンポジウム「伊能図を検証する」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 島津美子
2. 発表標題 伊能図の彩色材料と彩色技法
3. 学会等名 日本地理学会2022年春季学術大会シンポジウム「伊能図を検証する」
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 小林茂・永用俊彦・鳴海邦匡・臼井公宏・小野寺淳・立石尚之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 92
3. 書名 鎖国時代 海を渡った日本図	

1. 著者名 小野寺淳・平井松午・和泉清司・礪永和貴・上杉和央・小田匡保・小野田一幸・兼岡真子・川村博忠・倉地克直・紺野浩幸・佐藤賢一・地主智彦・臼井哲哉・杉本史子・塚本章宏・永山未沙希・鳴海邦匡・野積正吉・渡辺理絵ほか計42名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 320
3. 書名 国絵図読解事典	

1. 著者名 鳴海邦匡	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 305
3. 書名 地図（ものと人間の文化史 187）	

1. 著者名 石井伸夫・重見高博・長谷川賢二・古野貢・馬部隆弘・新見明生・山下知之・石尾和仁・中平景介・森脇崇文・天野忠幸・須藤茂樹・西川沙織・平井松午	4. 発行年 2022年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 384
3. 書名 戦国期阿波国のいくさ・信仰・都市	

1. 著者名 平井松午・島津美子・小田匡保・小野田一幸・久家孝史・紺野浩幸・地主智彦・永山未沙希・早川泰弘・平岡隆二・藤原秀之・三河雅弘・村岡ゆかり	4. 発行年 2022年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 344
3. 書名 稿本・大名家本 伊能図研究図録	

1. 著者名 平井松午・青山宏夫・小田匡保・小野田一幸・小野寺淳・兼岡真子・栗栖晋二・酒井一輔・佐藤賢一・杉本史子・塚本章宏・永山未沙希・鳴海邦匡・野積正吉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 269
3. 書名 伊能忠敬の地図作製 - 伊能図・シーボルト日本図を検証する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青山 宏夫 (AOYAMA Hiro'o) (00167222)	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構本部・大学共同利用機関等の部局等・理事 (82651)	伊能図とシーボルト日本図の比較分析
研究分担者	鳴海 邦匡 (NARUMI Kunitada) (00420414)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	伊能図と近世測量絵図の相関比較
研究分担者	杉本 史子(山田史子) (SUGIMOTO Fumiko) (10187669)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	近世身分制社会と伊能忠敬
研究分担者	島津 美子 (SHIMADZU Yoshiko) (10523756)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	彩色材料分析(染料・顔料) 2019年度より参加.
研究分担者	酒井 一輔 (SAKAI Kazuho) (30823794)	聖心女子大学・現代教養学部・講師 (32631)	伊能図関係の史料分析
研究分担者	小田 匡保 (ODA Masayasu) (70224243)	駒澤大学・文学部・教授 (32617)	伊能忠敬収集の国絵図・日本図の分析
研究分担者	佐藤 賢一 (SATO Ken'ichi) (90323873)	電気通信大学・大学院情報理工学研究科・教授 (12612)	伊能図の測量技術・地図解析
研究分担者	塚本 章宏 (TSUKAMOTO Akihiro) (90608712)	徳島大学・大学院社会産業理工学研究部(社会総合科学域)・准教授 (16101)	伊能図・針孔のGIS解析

## 6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	早川 泰弘 (HAYAKAWA Yasuhiro)  (20290869)	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・保存科学研究センター・センター長  (82620)	彩色材料分析(蛍光X線分析) 2021年度より研究協力者。
研究分担者	小野寺 淳 (ONODERA Atsushi)  (90204263)	茨城大学・教育学部・教授  (12101)	長久保赤水と伊能図の比較分析 2021年度より研究協力者。
研究分担者	磯永 和貴 (ISONAGA Kazuki)  (10201922)	東亜大学・公立大学の部局等・研究員  (35503)	伊能図と地方測量絵図の相関比較 2020年度より研究協力者。

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	村岡 ゆかり (MURAOKA Yukari)	東京大学・史料編纂所・技術専門員  (12601)	伊能図彩色の調査分析
研究協力者	栗栖 晋二 (KURISU Shinji)	東京大学・大学院理学系研究科・技術専門員  (12601)	伊能図記載地名等の調査分析
研究協力者	紺野 浩幸 (KON'NO Hiroyuki)	香取市・伊能忠敬記念館・学芸員・主幹	伊能図関係史料の調査分析
研究協力者	山口 真輝 (YAMAGUCHI Masaki)	香取市・伊能忠敬記念館・学芸員・主任主事	伊能図関係史料の調査分析

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	石山 啓  (ISHIYAMA Hiroshi)	香取市・伊能忠敬記念館・学芸員	伊能図関係地図の調査分析 2019～2020年度参加。
研究協力者	石井 七海  (ISHI Nanami)	香取市・伊能忠敬記念館・学芸員	伊能図関係地図の調査分析 2021年度より参加。
研究協力者	地主 智彦  (JIUSHI Tomohiko)	文化庁・文化財部・文化財調査官	伊能図料紙の調査分析
研究協力者	野積 正吉  (NOZUMI Masayoshi)	射水市・新湊博物館・学芸員・館長	地方測量の調査分析
研究協力者	永山 未沙希  (NAGAYAMA Misaki)	神戸市・市立博物館・学芸員	神戸市博本伊能図の分析 2019年度より参加。
研究協力者	小野田 一幸  (ONODA Kazuyuki)	神戸市・市立博物館・学芸課長	神戸市博本伊能図の展示 2020年度より参加。
研究協力者	兼岡 真子  (KANEOKA Mako)	射水市・地域振興・文化課・学芸員	伊能図コンパスローズの分析 2021年度より参加。
研究協力者	三河 雅弘  (MIKAWA Masahiro)	専修大学・文学部・准教授  (32634)	国立歴史民俗博物館所蔵伊能図の解析 2021年度より参加。

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤原 秀之  (FUJIWARA Hideyuki)	早稲田大学・教育学部・非常勤講師  (32689)	早稲田大学図書館所蔵伊能図の解析 2021年度より参加。
研究協力者	平岡 隆二  (HIRAOKA Ryuji)	京都大学・人文科学研究所・准教授  (14301)	長崎歴史文化博物館所蔵伊能図の解析 2021年度より参加。
研究協力者	久家 孝史  (KUGA Takashi)	公益財団法人松浦史料博物館・松浦史料博物館・学芸員	松浦史料博物館所蔵伊能図の解析 2021年度より参加。

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関